

2011年5月16日

天然ガス自動車の普及台数が4万台を突破しました

一般社団法人日本ガス協会

一般社団法人日本ガス協会（会長：鳥原 光憲）は、環境に優しい天然ガス自動車の普及に取り組んでおり、このたび、2011年3月末に天然ガス自動車の普及台数が4万台を突破しました。

天然ガス自動車は、1980年代後半から普及が始まり、その後2001年11月末に1万台、2004年3月末に2万台、2007年3月末に3万台と着実に国内での普及台数を伸ばしてきました。

現在の天然ガス自動車の車両割合は、2～4トンを中心としたトラック車両が全体の40%、塵芥車・バス・小型貨物バンなどの車両が全体の30%、残り30%が軽自動車や乗用車となっています。また天然ガススタンドは、全国で333ヶ所設置されています。

天然ガス自動車は、これまで環境性の高さから普及が進んできました。黒煙を全く排出せず、NO_x等の有害物質の排出も非常に少なく、CO₂の排出量も他の化石燃料に比べて10～20%少ない点などが評価され、世界では1300万台普及しています。また、米国のシェールガス革命などにより、天然ガスの生産量が北米を中心に急増しており、自動車部門の天然ガス化が進んでいます。

世界的な動きとして、物流を含めたサプライチェーン全体で温室効果ガスの排出量を算定する動きがあり、今後は物流におけるCO₂対策が重要になると考えられます。日本の運輸部門におけるトラック等の貨物自動車の台数は全体の8%ですが、CO₂排出量は35%を占めています。今後の低炭素社会構築にあたっては、都市間・拠点間の長距離輸送における大型トラック等の天然ガス化を進めることで、CO₂の大幅な削減が可能となります。

環境性に加え、エネルギーセキュリティーの点からも天然ガス自動車の役割は重要性を増すと考えています。運輸部門においては燃料の石油依存度が高く、東日本大震災ではガソリン等の需給が一時、逼迫するという問題が生じましたが、自動車燃料の多様化という点からも天然ガス自動車のさらなる普及が重要であると考えています。

都市ガス業界では、今後も関係各位と連携し、天然ガス自動車の普及に努めてまいります。

天然ガス自動車の普及推移

